

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079300184		
法人名	社会福祉法人添寿会		
事業所名	グループホーム添寿の里 (東館)		
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果確定日	平成23年5月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する福祉施設との交流や地域の様々な行事への参加、馴染みのある場所での散策やお店での買い物も積極的に行うとともに、入居者様のできる様々な家事を手伝っていただきながら、生きがい・やりがいのある暮らしを職員と一緒にしていただき、笑顔と笑い声の絶えない施設サービスを提供している。又、これまでに築いてきた家族との信頼関係や、職員、医療との連携体制の協力の下でターミナルケアにも取り組んでいる。又、運営推進会議は2ヶ月に1回 定期的に開催し、家族からの意見や要望・行政職員や社会福祉協議会からの情報提供など、意見交換を行っている。特に、6月・12月の運営推進会議は家族会を兼ね、入居者も加えた大規模な会議で 意見交換・交流の場となっており、いただいた意見を施設運営に役立てている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「添寿の里」は、社会福祉法人添寿会を母体とし、介護老人福祉施設や介護老人保健施設と共に、同敷地内にある平屋建てのホームである。創立者の想いが込められたホームは、ゆったりとした玄関に迎えられ、広い和室を通りリビングと繋がっている。入居者の方々が持てる力を活かしながら、地域のお祭りを見学したり、餅つきでお餅を丸めたり、お雛様を飾ったりと、季節の習わしや行事を大事にされ、馴染みのある生活を支援されている。家族会や運営推進会議、家族面談の記録を全職員で共有し、家族の意見や要望を理解し、大切に捉えることにより、家族との信頼関係の構築に努めている。また、家族会にも参加する協力医・訪問看護師との連携を図り、家族、職員が見守る中で看取りも行なわれている。研修が徹底され、職員の意見や提案も運営に活かされると共に福利厚生も整い、職員の職業意識が高い。その日、その時の思いに寄り添い、活き活きとした個性を尊重した支援の更なる充実が期待される事業所です。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関横に大きく見やすく理念を掲げ、勉強会等で管理者、職員で共有し実践につなげている	方針や目標は、親しみやすい字体で表記され、玄関に掲げられている。研修受講中の職員が、自分のホームの理念がどのように全職員に浸透しているか調査したことが、改めて職員に意識付ける機会ともなっている。年度初めには、理念についての勉強会が予定されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント、交流会、夏祭り等に積極的に参加し交流に努める	毎年、地域の夏祭りの山車が、ホームの玄関先まで巡行し、入居者は、直にお祝儀を渡されている。幼稚園児との歌の交歓やふれあいがあり、中学生の職場体験を受け入れている。園児や生徒の便りはホールに掲示されている。地域のイベントの参加と共に、来訪される地域の方々との交流が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちとのかかわりを活かし、施設訪問の受け入れ、また、認知症の相談や理解などに力を入れ支援している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を行ない、施設行事に参加して頂いたり、サービスの実際、施設状況等の報告、話し合いを行ないサービス向上に活かしている	定期的に開催され、運営状況と共に新旧職員の紹介等が行なわれている。行政関係者の参加が多く、介護保険やノロウィルス、インフルエンザの予防についての情報提供が行われている。この会議は、家族と行政の接点の役割も担っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こちらから市町村に出向いたり、市町村担当者の方に、当、添寿の里に来て頂いたりしてコミュニケーションを図りながら協力関係を築いている。また市町村担当者の方も協力的である。	運営推進会議には、市の担当者の参加を得ており、情報共有を図っている。入居者の介護保険更新の機会を捉え、異動で初対面の担当者もいるので、挨拶をして顔馴染みになるようにしている。ホームの行事や家族会に招待し、またケースワーカーとも密に連絡を取っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員が意識するよう、身体拘束排除宣言を掲示すると共に、マニュアルをいつでも閲覧できるよう整備し、社外研修に積極的に参加すると共に、月に一度の社内研修でも、身体拘束の項目を盛り込み、ケアに生かすよう勉強会を行なっている。	玄関の目に付きやすい箇所に「身体拘束排除宣言」が貼られている。朝・夕の申し送りの機会に、特に言葉による抑制について意識付けを行っている。帰宅願望のある方には、家まで同行されるなど、寄り添うケアに努めており、玄関は施錠はされていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の折、各種の虐待により、刑事罰・損害賠償が発生する事を認識させると共に、虐待に発展する可能性の有る事例などを示し、発生防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立の為に支援事業を活用されている利用者はおられない。成年後見制度については、社外研修等で得た情報を、家族会等の家族の方が多く集まる場での情報提供を行なうと共に、施設窓口で質問に答えるようにしている。	権利擁護に関する外部研修受講後に、職員も同席した家族会で伝達講習がなされていた。必要時、閲覧できるようパンフレットが常備されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に契約条項・準備して頂くもの等しっかりと説明、契約時も再確認をし疑問点に答え不安を与えないように配慮している。解約時には事前に連絡を取り合い、次の生活の場の手配をし不安を与えないよう配慮している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園される御家族や利用者の方より施設に対する意見や要望を聞かせていただいたり、家族会のおり御家族へのアンケートの実施を行ったり、御意見箱を設置し皆様からの意見を吸い上げ、施設運営に反映させるよう努めている。	家族は、運営推進会議に当番で出席し、その後に家族会が開催されている。また、家族と職員の面談後は、専用記録に誰が誰にどのような対応をしたのか詳細に残されている。年1回、家族へのアンケートを実施し、家族の意見や要望を明文化し、職員への周知徹底と業務への反映が図られていた。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに加えてほしい行事や企画を提出していただいている。又、職員会議の場で行事の準備の進捗状況を確認し、要望を聞き協力する体制を作っている。	月毎の定例会で、個別のカンファレンスと、行事後の反省、次の行事の検討が行われている。物事が会議の席で決定するので、職員の参画意識と責任感が強まっている。時には職員だけで検討し、試行してみるなど業務に反映されていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、運営者に報告すると共に、個人の能力を認めこれからも頑張れるように、励ましと支援を行なっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別により、採用の対象外とすることは無い。本人のやる気と、お年寄りが好きである事を基準に採用している。利用者と職員が生き生きと笑顔で過ごせ、やりがいをもちながら働けるよう環境に配慮している。	職員は全員常勤であり、60歳台まで在籍しており年齢層が広い。世代毎の考え方や特技が業務に活かされ、幅の広いケアとなっている。外部の研修にも毎年参加しスキルアップにつなげており、資格習得を奨励している。代表者の、認める誉める姿勢が、職員のモチベーションアップとなっている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議、申し送り等で、利用者の人権について話し合っている。又、身体拘束・虐待・プライバシーの保護と多くの事に係っている事から、社内研修での勉強会によりこれらを学習し、人権教育・啓蒙活動にかえている。	高齢者虐待防止や身体拘束、プライバシーの確保等、人権に関する研修会を年間計画に盛り込み、職員への人権教育へと結び付けている。	

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に職員との連携、チームケアの必要性など、質の向上を考え、職員の育成を念頭に置き、法人内研修や県の研修を始め、施設内勉強会をして日々、実践に活かせるよう努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の必要性を認識し、お互いに施設訪問・見学、など情報交換や相談している。また、月1回グループホーム協議会に参加し親睦を図り、意見交換しながら交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や電話等の問い合わせの段階から、不安や要望等をよく傾聴し、信頼関係を築いている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族、ご本人同様、見学や電話等の問い合わせの段階から信頼関係を築くよう努めている。また、直接言えない場合は手紙や電話等を利用して頂く様お伝えしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、よく説明をした後、他のサービスの説明を行ない、希望や要望をお聞きし、本人や家族にとって一番良い方法を話し合っている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係ではなく家族と考え、会話や経験の中から教えられる事多く、励まし合い、一緒に泣いたり笑ったりしながら、生活を送っている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時々、行き詰まりや限界を感じる事ことがあり、御家族との話し合いや協力を得て本人を支えて行く様に努力している		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会の支援や、日頃、話の中に出てくる自分の育った所までドライブに行く等の関係維持に努める	家族や友人の来訪時には、職員はお茶を出すなど共に歓待し、入居者自身が接待している雰囲気作りがされていた。また、配偶者が利用している他の事業所まで送迎し、面会できるよう支援している。	

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	談話室の充実を図り、交流しやすい空間と楽しく 家庭的な雰囲気を作り、一つの家族として支えあ えるように努力している。また、行事等に出来る だけ参加していただき、利用者同士が関わり合え る状況作りを行なっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院者や契約終了者には、こちらから訪問 したり、相談に乗ったりと、できる支援を行 なっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人の希望・御家族からの要望を聞き、希 望に沿った支援を行なっている。又、聞き取 りの困難な利用者については日常生活の中 で察したり受け止める努力をしている。	入居時のアセスメントでは、生活歴・趣味等、詳細 に情報収集を行っている。日々の生活支援や家族 との談話、入浴の時間等の、貴重な情報やミー ティングでの意見等が記録に残されている。その 記録を活かした情報一覧表のような物があると、 個性が顕著に職員間で共有できると考えます。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人や家族の情報収集、及び周りの情報収 集に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	昼夜を通し、全職員が利用者を支援し、共 に生活していく中で利用者個々の心身状態 を把握している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人の希望、現状で出来る事等、家族の意 見も反映し、その人らしい生活が送れるよ う、職員間で意見やアイデアを出し合い長 期目標・短期目標を設定し介護計画を作成 している。	QOLや精神面を洞察した計画が作成され、計画 に沿ってサービス計画実施記録があり、日々のケ アに反映されている。モニタリングも毎月行なわ れ、本人も交えた担当者会議で、3ヶ月毎の評価 が行われ、現状に即しているか常に検討されてい た。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別のケース記録・ケアプラン実施 表に記録すると共に、日々気付いた事や支 援する上での工夫などは申し送りノートで、 情報の共有が出来る様にしている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見や要望を可能なかぎり聞けるよう心がけており、互いに協力や願いなどをいつでも話し合えるように、コミュニケーションをとりつつ支援できるような体制作りに取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場や地域他、運営推進委員など、協力の下、地域でのイベントや町の資源を活用し、利用者が楽しんで活力ある暮らしが出来るよう取り組み支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医が週一回往診に見え、利用者の病状把握して下さり、御家族納得の下管理・指導しており、職員とも情報の共有・指示してもらっている。専門医療必要時は、そのときに合わせ受診し、御家族との連携をはかっている。	かかりつけ医は運営推進会議や家族会に参加され、日頃から職員や家族との関わりが深い。看護師もかかりつけ医との連絡を密にし、入居者の健康管理にあっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と医師、また、職員やご家族との情報交換を行っており、利用者の意見等も取り入れて適切な看護・介護が受けれるよう協同している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状に合わせ、かかりつけ医、施設、御家族との意見交換しながら医療機関との連携により、その人のよりよい治療が出来るようコミュニケーションをはかっている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度病状時の悪化・変化が見られる際や急変時、ご家族・医師・施設と3者で話し合いを持ち、説明と同意を得て、その後のあり方について支援しながら取り組んでいる。(過去3人看取り行っている)	「重度化した場合における対応に係る方針」に基づき、入居時や状況の変化に応じて、必ず説明と承認を得ている。責任者の確たる信念の下、職員、主治医、訪問看護師のチームケアで、終末期への支援が行われている。バックアップ体制を充実させ、夜間及び祭休日の職員へのフォローに努め、家族と共に看取りが行われている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に消防署の研修などで救急救命を受けさせたり、日頃から事故対応に取り組み、救急車につき添ったり実践してもらい、事故がいつ起こるか分からない危機感を常に意識づけている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は必ず実施している。又、緊急時の連絡網を整備し、近隣施設への協力体制を作っている。	隣接している同法人施設職員の、避難救護の活動状況まで踏まえて、夜間想定避難訓練が行なわれていた。避難時間の測定等の評価を行い、考察されている。	運営推進会議の委員には、消防団長をされている方もおり、災害対策について実践的な連携が築かれることを期待します。また、非常時の備蓄品の検討も重要です。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を傷つける事のないよう、言葉使い・接遇には注意し支援をしている。又、プライバシーを損ねる事のないよう配慮をしている。更に、施設内研修を行ない、再確認をしている。	催しや行事の参加にも、自己決定を促し、本人の意志を尊重されている。洋服の選択も好みの取り合わせを重視されている。友好的な会話の中でも、人格や尊厳を損ねないよう、言葉使いに留意されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話に傾聴し、なるべく本人の思いを生かした、本人が納得できる支援を心がけている。又、話の出来ない利用者に対しては、日々の生活の中で観られる表情や動作でその方の思いや希望を察するように気を配っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念である、「地域の人達と共に笑顔で自分らしい生活を送る」を支援のあり方の柱として、日々、利用者のペースに合わせた、本人主体の支援を行なっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望に合わせ、美容室に定期的に通っている。又、お化粧をされる方は毎日されており、化粧をしたいが自分で出来ない方においては、職員が手伝うなど、整容には気を配っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の献立を自由献立とし、利用者の意見を取り入れたメニューとして、利用者と共に買物をし、準備、片付け等を一緒に行ない食事を楽しんでいる。	日曜日の人気献立は、サンドイッチ・カレーライス・お好み焼き等であり、包丁を使って果物の皮むきなど個人の能力が活かされている。特に季節の土筆、せり、筍の皮むきは喜ばれる。日常は職員共々、同じテーブルについて同じ食事を談話を交えて摂られており、BGMには懐かしい演歌が流れ、ゆったりと時間帯となっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事量や水分量を記載し、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、食べる量の少ない方には、食事回数を増やしたり、代替品で対応している。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者全員に毎食後の歯磨きを励行し、一人一人に合わせ介助等や声がけにて、援助を行い、入れ歯等の消毒・管理を行い口腔ケアに努めている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせた排泄パターンを把握し、排泄計画の元、残存能力を十分活かし羞恥心やプライドなどを十分考慮した声がけ・トイレ誘導・ポータブル誘導の援助を行いながら自立支援に努めている。	夜間でも、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。水分補給を重視し、特に夜間帯の水分に留意されている。退院後は、排泄機能の低下が著明となるが、入院前の状態に回復するよう介護計画にあげ、実行されていた。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、2回体操や歩行訓練など適度な運動を促しながら、食事やおやつに繊維物などで対応、排便がないときなど腹部マッサージなどを行い、出来る限り気持ちのよい排泄が出来るよう水分補給を徹底し取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援	本人の希望に添えるよう毎日入浴できるようにしている。また、体調に合わせて、一人一人ゆっくりと入浴してもらい、必要に応じて、見守り介助・身体の観察をおこないながら、気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	安全に安心した入浴のため、身体機能に合わせて、特注の手すりが設置されていた。入浴を拒否する方も、2日に1回は入浴できるよう支援している。入浴時間は希望に添い、長い方は30分間、唄ったり話をしたりして個人にあった入浴を支援している。入浴後も、お茶・お水・ボカリスエットと水分補給に留意されていた。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の動きや体調を十分に把握・観察を行いながら、その日の状態に合わせて安心して安眠出来るように努め、空調調節等に気を配り安眠の支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の書類やお薬台帳を元に、職員全員が薬の目的・副作用等を理解・共有しながら、変化あるときは、かかり付け医や薬剤師の先生に相談し日々観察に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴に注目し、お茶・カラオケ・縫い物などその方の得意とする分野で気分転換を図っていただくと共に、家事・花の手入れ・草むしりなど本人が好きな作業に協力をお願いし、共に生活し、張り合いがもてるように支援をしている。		



福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や状態に合わせ、散歩をしたり、花壇や畑の手入れ、買物等、本人の希望に沿った外出を行なっている。又、普段行けない所に出かけような行事計画をたて、見物をしたり、食事をしたり、リンゴ狩りをしたりと、外出を楽しんでいたいている。	広い敷地内の散歩をしたり、玄関先の広場を利用して、椅子を持ち出して日光浴や外気浴を兼ねた茶話会など、戸外の時間を楽しんでいる。また随時機会を捉えては、観梅のドライブなど実行されている。家族と同伴で散策される場合もあった。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度自己管理できる利用者には、お買物の時には、お金を所持していただき、職員が立会い確認の上、買物をしていただくように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、何時でも電話を使用出来るようにしている。手紙を書かれたときには近くのポストへ投かんする為に、同行したりやり取り出来るよう支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節に応じた飾り付けを行ったり、壁には最近の行事の思い出の写真を貼るなど、居心地の良い空間作りを行なっている。	広く明るい玄関から、よき時代の落ち着いた日本家屋を思わせる玄関ホール、独立した和室、リビング、居室と続いている。玄関ホールには、常に季節や折々の行事にあった飾り物がされており、ドライブ等のスナップ写真や作品類が貼られている。リビングは厨房と向かい合い、調理の音や匂い、職員の会話など生活感があり、食事が出来上がってくる過程を楽しむことが出来る。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファーやテーブル、新聞や雑誌を置く事で、本人の時間を思い思いに過ごせる様配慮している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、御家族に協力していただき、収納できるサイズの馴染みのある家具や置物などを持参して頂くと共に、本人が安心して生活できるよう配慮をしている。	居室入口には、表札と共に笑顔の写真が掛けられ親しみが持てる。室内は出窓があり、ガラス窓からの採光で開放感がある。創立者の想いが込められている寝台は広く、馴染みやすい畳が用いられ、懐かしい雰囲気となっている。また枕元の棚や壁には、写真や自宅にあった小物が飾られ、個性やこれまでの生活を想像できる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には写真つきの表札を掛け、自室が分かりやすいように工夫している。又、トイレ・お風呂など、入り口扉に分かりやすい大きな字で部屋名を表示している。又、その方の能力に応じて自立した生活が送れるように努めている。		